

平成28年度「高校生社会参加促進事業」研修会 実施報告

1 日時	平成28年7月8日（金）	13:30～16:10
2 会場	奈良県立教育研究所（磯城郡田原本町秦庄22-1）	
3 参加者	47人（県立学校教職員等）	
4 内容	13:30～ 13:35	開会挨拶
	13:35～ 13:45	事業説明 人権・地域教育課 津浦 和久
	13:45～ 15:15	講演 「いま、高校を地域に埋め戻すとき ～学力向上と地域再生の一体的展開～」 岐阜県立可児高等学校 教諭 浦崎 太郎
	15:15～ 15:25	質疑応答
	15:30～ 16:10	意見交換
	16:10	閉会

5 講演概要

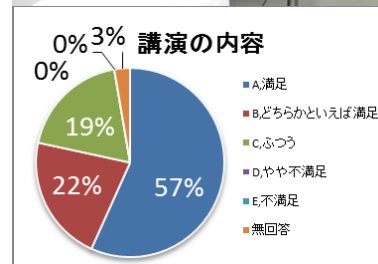
(1) いま、可児で何が起きているのか？

・可児高校では、岐阜県教育委員会がグローバル化や少子高齢化等の急速な社会情勢の変化に対応した高校改革を推進するために立ち上げた「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業（平成25～27年）」への参加を契機に、可児市や地元の諸機関、諸団体との協働体制を確立した。同校では、その事業の一環として、地域課題解決型キャリア教育を通して、生徒の学力向上と地域の再生を一体的に推進している。



(2) なぜ、地元や学校を動かせたのか？

・プロジェクトの参加を通じて地域と深く関わった生徒が大きく変容したことや、市や地元の諸機関・諸団体の理解を得ることができたことなどにより、地元や学校を動かすことができた。



(3) なぜ、高校と地域の協働は必要なのか？

・高校生が、「自分たちの課題は自分たちで解決する」「身近な大人とリアルに関わる」「地域に一体感・当事者意識をもつ」ことを可能にさせる地域の存在は、学校にとって大切なものであり、地域（コミュニティ）の「共助」は、高校生の学力や社会性の向上に必要な基盤となる。一方、地域にとっては、高校と地域が協働する仕組みを作ることで、高校生の地域課題に対する当事者意識が育成され、地域の再生につながるというメリットがある。

(4) アクティブ・ラーニング（AL）…いつ・どこで・何を？

・ALに対する社会や大学からの期待と高校生の実態には乖離がみられるのが現状である。ALの実効性を高めるためには、地域に視野を広げ、生涯学習的な視点をもって「多様な大人が地域のリアルな課題を解決する活動にALを導入し、そこに高校生も参加させる」ことを踏まえたうえで、高校ではそれにつながる教科指導を行うことが望ましい。

(5) 高校と地域の協働…無理のない一歩

・高校と地域の協働を推進するに当たっては、無理なく現実的な対応を行うことが必要である。

6 感想

- ・「地域と共にある学校づくり」について実践的な成功例をご説明いただき、考えるヒントを頂戴した。学校の特色を出すことにつなげていきたい。
- ・講演を参考にして、人との「縁」を大切にして活動していきたいと思った。
- ・地域との連携の在り方についてもお教えいただき、モチベーションが高まる思いであった。